

## 公聴会の結果（多治見市会場）＜公表用＞

※本書は公表用のため、公述人の氏名は記載していません。

### 1 日時及び場所

平成26年1月10日（金） 午後6時30分～7時30分  
多治見市文化会館 2階 大会議室（多治見市十九田町2-8）

### 2 対象事業の名称

中央新幹線（東京都・名古屋市間）

### 3 公述人の陳述の要旨

#### （1）公述人A氏（多治見市）＜資料配布＞

私の公述はリニアの問題と、ルート上のウラン鉱床の問題についてです。私が先程、紹介がありましたように2枚参考資料を用意してございますので、話の中でこの資料を使っていきたいと思えます。

まず、このウランの問題について、JRの準備書と見解書の主張についてその要旨はですね、「動力炉核燃料開発事業団の調査によって明らかにされた東濃ウラン鉱床を回避したルートだからウランやラドンガスの問題は生じないし、人体への影響もない。」というのが、JRの準備書と見解書に明らかにされている見解です。この見解について、私の意見を述べます。まず第一に、計画されているリニアの計画ルートがどこをどう通るのかについては、お手元の資料の1枚目の地図をご覧ください。これは準備書の中にある1頁です。右下に図の8-3-3-3 東濃地域地質及び鉱床分布図と書かれています。この中で横の点線が計画されているリニアのルートです。そしてここにウラン鉱床の場所が記されています。まず日本最大のウラン鉱床だと言われている月吉鉱床が、横の点線と斜めに書かれたABという実線のところでですね、この点線の下のところにある、横にある程度面積がある鉱床が、これが日本最大のウラン鉱床と言われている「月吉鉱床」です。そして東濃ウラン鉱床群のなかで2番目に大きな鉱床が御嵩町次月にある「美佐野鉱床」で、これはこの図の中の斜めに入った線と交差している点線から少し上のところにあるのが、御嵩町の美佐野ウラン鉱床です。その上にさらに北側になりますが、「謡坂鉱床」があります。そして、日吉町には「松野鉱床」、「宿洞鉱床」、「平岩鉱床」、「深沢鉱床」という4つの、これはちいさな鉱床があります。これについて、JRはこのリニアのルートというのは東濃のウラン鉱床を回避して設定されているというふうに説明していますが、私はまさにこのルートというのは東濃ウラン鉱床群の中央部、真ん中を通っているというふうに見えます。ここから私はですね、このルートとウラン鉱床がほとんど離れていなくて極めて隣接したところにリニアのルートが設定されていると捉えます。次にウランとラドンについてですね、基本的な問題としてウランとその壊変の過程で発生するラドンガスは人体に有害であるということです。これは世界保健機関WHOが2005年に、ラドンは肺がんの主要な原因と警告しました。また、アメリカの環境保護庁はラドンに安全量はなく少しの被ばくでもがんになる危険性をもたらすという見解を明らかにしています。さらに掘削したウランが含まれるウラン残土の問題というのは半永久的に土壌汚染と大気汚染を引き起こします。これはウランが混ざった掘削残土はですね、その中にウランが含まれていることによって、ウランが壊変してラドンガスが出ます。このラドンガスは、ウランというのは非常に半減期が長い放射性物質ですので、半永久的にラドンガスを出し続けるということで、このことは日本では、鳥取県と岡山県の境にある人形峠で長年問題となってきたことに明らかです。そういう意味でこれはJRも

認識していると思いますけれども、ウランとラドンというのは人体や環境に有害な物質だということですが。

次にJRの主張の問題について、私はまず第一に岩石や土壌中に存在するカドミウム等8種類の重金属については5地点で現地調査をしています。これはJRの準備書を見れば明らかなのですが、5地点で現地調査をしているにもかかわらず、ウランについては現地調査をまったくしていません。ただ、動燃の過去の調査の資料だけを、文献調査だけを行っていて現地調査をまったく行っていない中で、このルートを設定されているのがひとつの大きな問題だと思います。

次にこのルートとウラン鉱床について、確かにウラン鉱床は回避していますけれども、ウラン鉱床に非常に隣接したところを通るという問題について、ウランやラドンの問題はないとJRは言っているわけですが、本当にそうなのかということを検証しました。その方法は、ルート上の4地点と月吉ウラン鉱床内の4地点で放射線量を測定し比較しました。それがお手元の資料の2枚目です。上に書かれたリニアルート上4地点の放射線量が①から④まで、瑞浪市日吉町南垣外の非常口付近、それから御嵩町次月、それから可児市の久々利大萱、それから多治見市大針町の4地点で測定しました。下は月吉鉱床内4地点での放射線量です。これは瑞浪市明世町月吉の月吉公民館裏、瑞浪市明世町月吉の正馬様洞、それから瑞浪市明世町戸狩の瑞浪超深地層研究所付近、それから土岐市泉町河合賤ヶ洞の東濃鉱山正門前で放射線量を測定しました。この結果からですね、ルート上4地点の放射線量は月吉鉱床内4地点の線量とほぼ同じであったことです。とりわけ瑞浪市日吉町南垣外と御嵩町次月の2地点の線量は高いということです。すなわちルート上においても月吉鉱床内と同程度のウランが存在し、掘削によるラドンガス問題が生じる恐れがあります。

以上によりウラン鉱床を回避したリニアのルートでは、ウランやラドンガスの問題が生じないとするJRの主張には根拠がありません。これはJR自らがウランについての現地調査もしないで、安易にルートを設定したことに原因があります。こうした調査をするよう私は求めます。以上です。

## (2) 公述人B氏（可児市）

ルート公表後の説明会では、準備書の内容が説明されました。しかし、その内容が膨大であり、専門的なために、はたして多くの住民が内容を正確に理解できたでしょうか。環境影響評価法、すなわちアセス法が求める残土の処理問題、ルートの修正問題をJR東海は再度の説明会の中で地域住民の理解を深める努力をさせていただきたい。以下、この点について意見を述べます。

### 一、残土の処理問題とアセス法第14条第1項第7号ロについて。

住民はJR東海が行った評価項目の調査結果を聞くために、説明会に出席しました。しかし、説明は不十分であり、特に残土の捨て場、処理方法の説明がないことに住民は不安を抱いています。残土の問題は準備書で地域住民に説明すべき問題でした。トンネル工事が出てくる膨大な残土をどこに捨てるのか明らかではありません。平成25年6月13日付けの読売新聞によると、JR東海は環境保全統括部長は独自に処理施設を建設したり、自治体の施設に委託することで対応すると説明しました。そしてJR東海はこのことを評価書に処理施設の概要を盛り込む方針と述べていました。アセス法第14条第1項第7号ロはJR東海に対して環境保全のための措置を準備書に記載することを義務付けています。また、厚生省は平成23年7月15日付けの意見で、方法書以降の手続きにおいて、土の捨て場の附帯施設、位置、規模を明らかにする必要があると指摘していました。

しかし、JR東海は準備書段階での説明責任を履行せず、法律上説明義務のない評価書に意

図的に先送りすることで、説明責任を回避しました。残土の問題について、準備書での回答を避けることは、アセス法第 14 条の規定に抵触しています。評価書の問題は、準備書段階での説明が終了した後に出てくる問題です。J R 東海はアセス法第 14 条と同第 21 条以下の規定を混同しています。アセス法第 14 条が定めている環境保全のための措置が未だにとられていないにもかかわらず、J R 東海は評価書問題に論点をすり替えました。これはアセス法が求める手続き上の瑕疵に該当し、監督官庁による許認可等の要件を欠くこととなります。

二、アセス法第 21 条以下の規定とリニアのルートの修正について。

可児市大萱地区ではリニアのルートが地上を通ると公表されています。J R 東海はリニアのルート公表後、ルートの変更はあり得ないと断言しています。この一方的な表現と不適切な情報は多くの住民に誤解を与えています。ルートの公表は J R 東海の事業計画の一方的な意見表明に過ぎません。したがって、法的拘束力はありません。可児市長は行政の長として意見表明をしています。可児市議会は住民意思の代表者として、地下ルートを全員一致で可決しています。このことは可児市の文化財を守るという可児市住民の強い意見表明であります。アセス法第 21 条以下の評価書に関する規定は、修正を認めています。この修正すら認めないという趣旨であれば、J R 東海はアセス法第 21 条以下の法解釈及び適用を明らかに誤っています。リニアのルートを含めて、J R 東海の事業計画の認可は、最終的には国土交通省大臣の専権事項です。J R 東海に決定権はありません。環境配慮の内容は、事業者の自由に委ねられているわけではありません。可児市の貴重な文化財遺産を保存するという地域住民の意見を無視して計画を進めることは、適正な配慮がなされていないとして、許認可等の要件を欠くこととなります。

三、再度の説明会の開催の必要性について。

J R 東海が準備書の説明会会場で配布した環境影響評価準備書のあらましによれば、準備書はアセス法第 14 条に基づき、事業による環境影響評価の結果に関して、環境保全の見地から意見を聞くために取りまとめられたものです。しかし、J R 東海の準備書には残土の捨て場、残土の管理等についての細部にわたる地域住民への説明責任が十分に果たされていません。評価書段階では法律上、住民参加の機会はありません。それ故に J R 東海はより積極的に住民参加の機会を保障しなければ、地域住民からリニア事業に対する理解を得ることは困難であると理解すべきです。J R 東海は再度説明会を開催して、事業計画に理解を深める努力をなすべきです。

最後になりましたが、岐阜県知事をお願いいたします。J R 東海がアセス法第 14 条、同第 21 条に基づき、一つ、残土の処理問題を早く解決するよう、二つ、可児市大萱地区ではリニアのルートを地上から地下へ移すこと、三、説明会を再度開催するよう行政指導をお願いいたします。以上です。

### (3) 公述人 C 氏 (多治見市)

私はリニア中央新幹線についての全般についての疑義を、ここで発言させていただきます。

とりわけ私は、元職がブルトレと電車の運転士をしていました。今、在来線の運転士は甲種電気車という国家試験の免許を持っています。しかし、このリニア新幹線には運転士はおりません。どういう人がその安全を守るのか、利用者が本当に安全に守られるのか、東京、名古屋間その 86 パーセントが地下 40 メートル以下です。こうした中で、いわゆる列車が、リニアが止まったときに、地下の 20 キロメートル、40 キロメートルをどのようにして退避するのか。私たちは従来、現職で働いていたときは、月に 2 時間訓練をやって、そしてテストをやって、安全問題について学習して、本当に安全こそいわゆる輸送業務の最大の使命であるということをやってきました。

しかし、今回のリニアは 40 年前の計画をとにかく走らせてしまえというようなことであります。そういう意味で東京、名古屋間を時速 500 キロメートルで、40 分で走るというようなことがたとえされたとしても、この岐阜県とりわけあの美乃坂本の駒場のあのところに駅を作って、どうしてお客さんが乗るのでしょうか。私は本当に J R 東海は駅員を置かずにしかも切符も売らずに、そしたらどうするんだと言ったらホームにベンチを置くと、この程度にしか考えていません。そういう意味で岐阜県としてもきちっとそういう問題についてもぜひ議論をしていただきたいというふうに思います。いわゆる J R 東海の考えているのは、美乃坂本に中津川駅を作って、いわゆる非常事態の対応の退避にする、そういうことにしか考えていないと思います。

そういう意味で J R の安全に対する考え方が非常に疑問を感じます。それから超電導そのものが私たちはまったく理解ができません。私たちも住民の皆様も超電導とは何だ、ということです。ドイツで常電導でリニアを作っている脱線事故があって、リニアは中止になりました。そういう意味でそれを上回る超電導で動くということ自体が本当に人体に影響を与えないか、しかもその時速 500 キロメートルで走るので、いわゆる地下 40 メートルといってもその振動とかが大丈夫なのか、というような心配があります。しかし、この準備書面を読んでも全くそういうものについては、「ご心配ございません。」ということが書かれているだけで、細かいことは一切触れられておりません。この文化会館の小ホールで 10 月に J R 東海の説明会があって、私も質問をしましたが、まったくそれに対する明確な回答はしてもらえませんでした。そういう意味で、超電導とそれから地下 40 メートルで起こる非常事態にどう対応するんだ、というところをぜひ明確にしていきたいと思います。

それから私は北丘町に住んでいます。すぐ近くの大針町のところをリニアの線路の計画が通っています。そして大森口が脱出口だというふうなことで書いてありました。本当に私たちはそれだけ近いところを通っていて、いわゆる何百ガウスとかいう磁力を出すものが、年中、1 日 24 時間、365 日そういうものの影響を受けても大丈夫か、という心配をさらに強めています。それから、リニアは、本当に皆さんが非常にマスコミでは大変に宣伝していますが、しかし、本当に岐阜県の中津川美乃坂本に駅を作って大丈夫かという声がたくさんあります。そういう意味で私はリニアの計画について、できることならストップしてそれをいわゆる新幹線、そして在来線の安全対策に使うべきだというふうに思います。

さっき言いましたように、ドイツでも最初の計画より何千億円という金額に工事を始めたら掛かったそうです。そういう意味で 10 兆円近い予算をとって新幹線を作って、それが国民に還元されるのかとメリットがあるのかと、そういう意味で私はリニア中央新幹線については反対の立場を明らかにしていきたいというふうに思います。ぜひ岐阜県の皆さんにも住民の声を真摯に聞いていただいて、J R 東海に反映していただくようお願いしまして、発言を終わります。

#### (4) 公述人 D 氏 (多治見市)

私は、地下水、水資源、埋蔵資源についてと、それから廃土についてと、それから中津川に建造される新駅について、この 3 つとそれからそのあと時間がありましたら、若干今回のリニアの説明会について意見を言いたいと思います。いろいろありまして、原稿を何回も推敲しましたので、脈絡のない場合もありますし、棒読みになる場合もあり聞きづらいかもしれませんがお願いします。

地下水と水資源、埋蔵資源については、先程公述番号 1 番の方もお話しなされたのですが、少し関連すると思います。瑞浪市の松野湖の近くをリニアのトンネルが通過することになって

おります。この辺りは全国的にも貴重な湿地帯が存在しているわけなのです。水枯れが心配されております。現に山梨の実験線では河川の水枯れも数件起きていると聞いております。取り返しのつかない事態を招かないように十分な配慮と検証が必要だと思っております。また、この地域にはウランの鉱床などの地下資源があるというふうに言われているわけなのですが、周囲への影響は未知数でありますから、先程公述番号1番の方も言われましたが、ラドンガスの発生というのも十分に予想されているわけなのです。これも肺がんの要因になるというふうに言われているそうです。工事のみならず、すぐ傍の住民も十分に注意していかなければならない問題だと思います。同じ瑞浪市には近くには化石などが発掘されているわけなのですが、考古学的な学術資料になるような埋蔵されている資料も予想されているわけなので、トンネルの掘削については、重要な遺産に注意して進んでいただきたいと思いますと思っております。

それから、廃土についてですが、先程公述番号2番の方も言われたように、JR東海ではなるべく公共の用に活用したいと表明されています。ところが黄鉄鉱やカドミウム等の重金属類やウラン鉱があるのですね。埋蔵されているものの中には危険物質もあるわけですね。現に東海環状自動車道の工事中においても黄鉄鉱などの成分で周囲の環境に悪影響を与えたというふうにも聞いております。これらの成分は十分に検証して、廃土については処理をしていただきたいです。もう一つ私は書いたのですが、廃土の議論についてはいろいろ問題があるのですが、御嵩町の亜炭鉱の廃坑なんかの埋戻しに利用したらどうだというような提案を以前、JRの説明会でしましたが、なかなか困難な課題もあることはわかっております。ですが、御嵩町の現在の状況、これはリニアとは直接関係ありませんが、今でも不安な状態におかれている方がたくさんみえるわけなのです。埋戻しをするには、予算や安全面での難しい問題がたくさんあると思いますが、できればこちらの方に使っていただきたい。そうすれば、私がいうことではないですが、リニアのイメージもアップができるのではないかなと思っております。

最後に中津川に建設される新駅について述べたいと思います。この新駅については、東海道線の新幹線の岐阜羽島駅が想起されてなりません。地元の中津川市や恵那市の皆さんは、かなり期待も大きくてケチをつけるつもりは毛頭ありませんが、岐阜羽島駅の二の舞になるようなことになっては大変ですから、若干お話をしたいと思っております。平日の昼間ですが、所用があつて岐阜羽島駅に立ったことがあります。あまりにも静かでありました。人通りも少なかったですね。駅前にはビジネスホテルが何軒もあり、今でも営業を続けているところもあります。せっかくのいろいろな施設がお年寄りの方などの福祉施設に姿を変えているところがたくさん見られました。ここは新幹線ができた当初の駅で、開業して半世紀近くが経っていますが、駅前の賑わいが本当に乏しいと思っております。中津川駅もこの二の舞になってはならないと私は願っていますが、地元の方は観光中心に考えてみえます。私もリニアのルートを検証していて気が付きましたが、古来からの中山道がすぐ近くを通っております。この中山道で有名なのは馬籠宿や妻籠宿なのですが、人の流れが四季を通じて絶えませんが、これを中津川の新駅の方へもらってはいかがかということです。すべての宿場をつなぐことは大変な事業だとは思いますが、沿線の落合宿、中津川宿なんかは一部自治体の手で整備されているのですが、これを全部つないで、すぐ新幹線の近くに、駒場のあたりは中山道も通っていますので、これをさらに恵那の大井宿や瑞浪の大湫宿、細久手宿、これを經由してまた御嵩の方にもつないでいるのですから、岐阜県内の全部をつないだ道を目指せば、かなり観光にも役立つし、人の流れもこちらにもってこられるようなふうになるのではないかと、こういうふうにも思っております。自治体ごとには部分的には整備されていますけど、これを全部つなぐには、幹線道路などで分断されているところもありますし、中には住宅の作り変えなんかも必要かもしれませんが、これは新駅のプロジェクトに対する起爆剤で全国に発信できないものかと、そうなれば観光にも役立つのではないかなと思っております。まだ話したいことがかなり残っていますが、これで終わります。

#### (5) 公述人E氏（神奈川県相模原市）

岐阜県の説明会に2回ほど参加をさせていただきました。やはり住民の方はウラン鉱床の問題、さまざまな問題を抱えているということで、僕も神奈川県に住んでいますが、車両基地ができるということで、同じことが増えるんだということを感じております。やはりリニア計画自体がそもそも本当に必要とされているのかどうか、本当に必要であるのだったらもう少し住民説明会を設けるべきですし、今回の説明会を見てもメディアをシャットダウンする形でJR東海のやり方は一方的なやり方だと思います。それに対して、ちゃんとリニア計画自体を再検証、凍結又は見直しをするべきじゃないかと思えます。

今回、電磁波、磁界について12月9日にある新聞が記事を出しました。仲間からもいろいろな電磁波の情報をいただきまして、50ヘルツがだいたい平均で、200ヘルツを超えると人体に与える影響は大きいとお聞きしました。今回の山梨実験線でも東京、神奈川、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知の沿線自治体から職員が動員されてご紹介されたということと、JR東海の内田吉彦環境保全統括部長は国際基準に適合していると明確にお答えをされています。僕たちはこの計画自体に違和感と疑問を持っています。例えば超電導から6メートル離れた地点で0.18ミリテスラ、9メートル離れた場合は0.061ミリテスラ、時速30キロメートルで0.184ミリテスラ、時速500キロメートル走行でも0.184ミリテスラということで、さまざまな数字が出されております。正確に壁や床面や座席の位置で測らなければならないのではないのか。これは今回たぶんJR東海の職員だと思えますが、服を着てガウスを測っていますね。これを見ますと、23.92パーセントということで人体に与える影響はかなり大きいのではないかと僕は思います。岐阜県の知事や市長をはじめとして皆さん、リニアは本当に大丈夫なのか、人体に与える影響は大丈夫なのかということをもう一度見直すべきでないでしょうか。住民は様々な問題を抱えています。

今後、残土の問題、消費電力の問題で、JR東海の葛西会長、今度名誉会長になられるということで、新聞記事でもトロイカ体制にするということで、リニアを推進して作っていくのだということを経営関係に発表されました。他の説明会でも「葛西会長の言っていることは原発を推進していますけれどもどう思いますか。」ということについて、「これは個人としての答えであり、JR東海としての答えではない。」とお聞きしました。JR東海はそういうことを考えて、会長はいいようにやるんだなということを実際に残念に思います。原発数基分の電力を使うということで、浜岡原発の一部を使っています。山梨実験線でも刈羽原発の一部の電力を使っています。今後、たぶん岐阜県でも変電所ができるということで、見させていただきました。住民が説明会をみて、不満を抱えながら本当に必要なのかなのか、今回他の地域をみても明確なデータ、数値もないし、本当にこれで信じていいのかなということ、不安視されています。

参考までにある地域に関する資料をお見せしますが、岐阜県でもこういうことは絶対に起きるのだろうということを想像しています。残土の爪痕ですね。私はあちこちに参加していますが、ある県でこういう問題があるのです。残土の問題、ダンプが1日460台とお聞きしましたが、岐阜県でも大変な問題が出ています。例えば、通学路を歩行者、児童が通っているときに、誘導員をひとり配置するからそれで補うんだということを言っています。

ある県は地下水が枯れたり、作物に影響が出たりしています。これは本当に許しがたいことで、リニアを作っているものかと思えます。生態系に関しては、仲間からも聞いていますが、クマタカやオオタカ、ノスリの影響は間違いなく大きく出るだろうと、学者の方にも聞きましたが、同じことを言っていました。岐阜県から山梨県の間は高架橋、トンネルになると思いますが、山梨実験線でも同じように問題はあると思えます。今回非常口の問題でも緊急車両がど

うやって入るのか、そういう明確な答えもなく、遠く5キロメートルから10キロメートル立坑を歩いていただくと。例えば、障がい者や車いすの方、いろいろな方がいると思いますが、乗客と一緒に手伝ってもらうんだということで乗務員は2、3人しか設けないと。これで夢の超特急に乗りたいと思いますか、皆さん。

いろいろな数字があると思いますが、さっきおっしゃった岐阜羽島でもリニア計画も羽島と同じことになるのではないかという住民の声が載っていました。これは本当に企業誘致や雇用に期待ができるのかどうか、僕は期待できないと思います。いろいろな説明会を見させていただいても、住民にちゃんとした正確な数値、データの説明がなく、改めて説明会を開くべきだと僕は思います。ぜひ再検証するべきでないかと思います。最後になるかと思いますが、新幹線の老朽化があり、二重に結ぶためにも、山田社長は会見で、着工を一日でも早くしたいと明確に答えを言っていますが、沿線住民に対しては丁寧な説明をちゃんとやるということも記事に書かれています。シャッター街の町が多いのだと思いますが、岐阜県民の皆さん、リニアは本当に必要とされているのでしょうかを考えていただきたいと思います。

ウラン鉱床を掘れば放射能がでるかもしれない。そういう怖いことが起きると思います。次の私たちの世代、この事業計画、リニア計画について、国土強靱化にみせた公共事業の計画でやろうとしています。私たちの税金を使ってリニアを作ろうと思っています。ぜひ皆さんもう一度再検証をしていただきたいと思っていますので、ご不明なところがあれば僕のところへ言っていただきたいと思います。いろいろな機会があればまた参加したいと思っています。ありがとうございました。選考されたことを心より感謝申し上げます。人数的にも岐阜県の方は20、30人が選ばれているということで、明日中津川でもありますが、頑張って発言されると思いますので、期待したいと思います。終わります。

#### 4 その他公述会の経過に関する事項

##### (1) 公述人の代理人が出席した場合の代理人の氏名及び住所

該当なし

##### (2) 傍聴人の人数

36人